

資産運用

本資料は、金融経済教育推進機構(J-FLEC)が作成したものです。本資料は、中立・公正な立場から金融リテラシー・マップに沿った金融経済教育を実施することを目的としており、特定の金融商品の勧誘を意図しておりません。J-FLECは、インターネットを通じて提供されている情報を含め、信頼性が高いとみなされる情報等に基づいて本資料を作成しております。しかしながら、当該情報が正確である事を保証するものではありません。また、当該意見・見通しは、将来予告なしに変更される事があります。ご使用にあたっては、「[講師派遣で使用する教材の公開について](#)（「一般の方のご利用について」）」をご確認ください。（上記リンクをクリックあるいは下記二次元コードを読み取りいただくと、J-FLEC HP(発表・広報)に遷移します）。


J-FLEC

金融経済教育推進機構



CONTENTS

- ① 運用の考え方
- ② 株式投資
- ③ 債券投資
- ④ 投資信託



① 運用の考え方

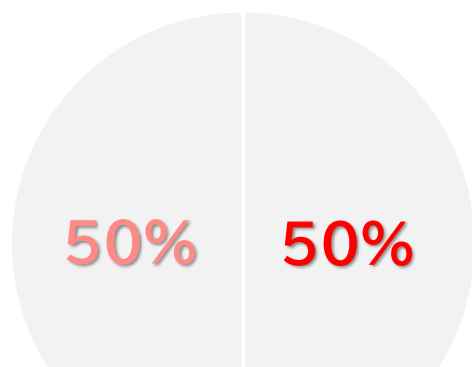


- 資産運用の考え方について、過去の実例と資産配分から考えてみましょう。
- 皆さんなら次のうち、どの運用パターンを選びますか？

A. リターン重視の運用

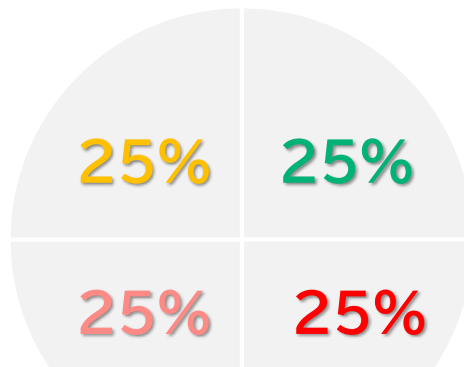
B. バランス型の運用

C. 預貯金のみで運用



国内株式

外国株式

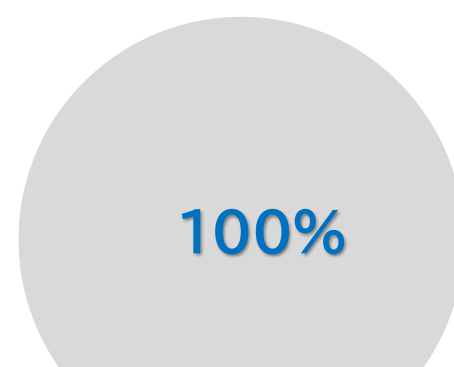


国内債券

外国債券

国内株式

外国株式



預貯金

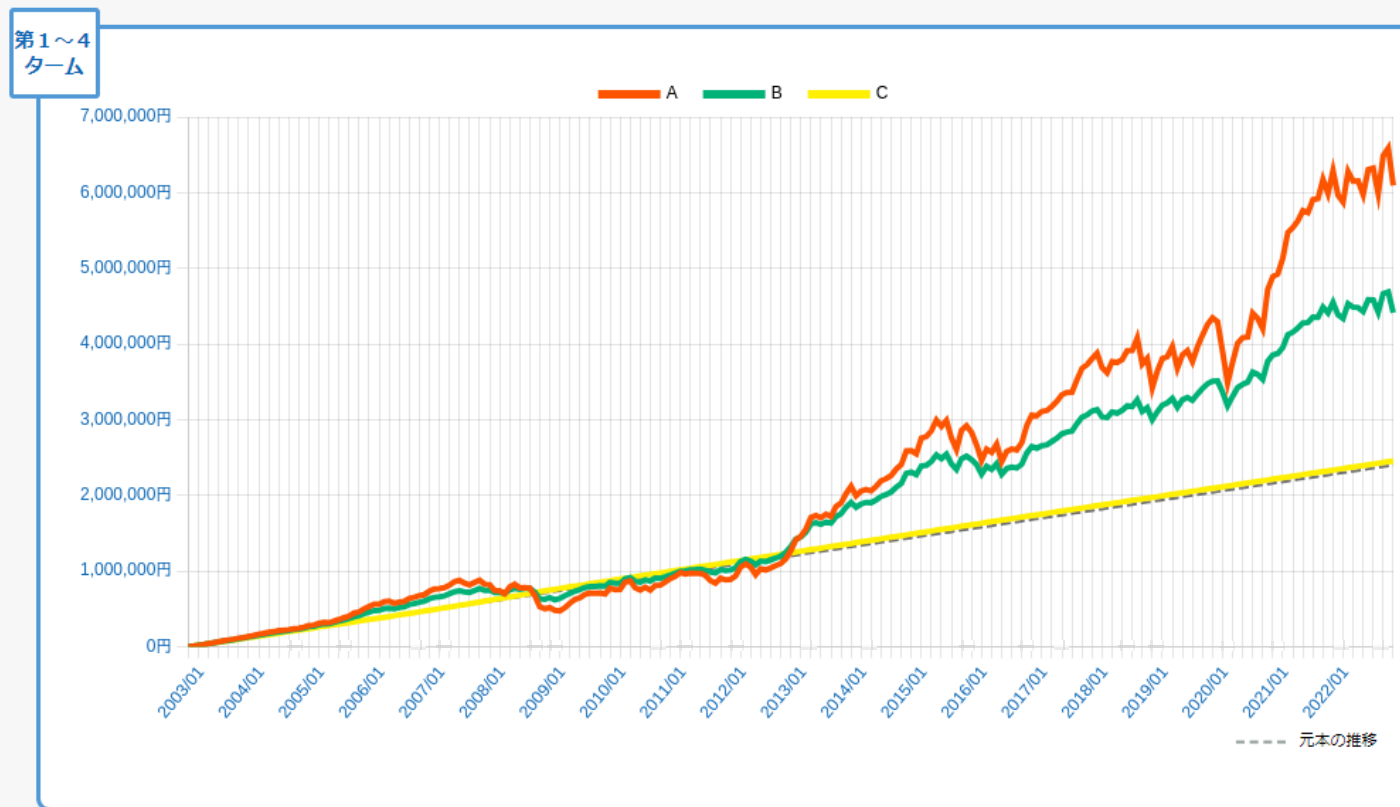
2003年から2022年の間、毎月1万円を積み立てた場合、
20年間でどのようになるでしょう？

○ 2003年から20年間の実績は次のグラフのようになります。

A. リターン重視の運用

B. バランス型の運用

C. 預貯金のみで運用



Aが最も
資産が増加

**A.リターン重視の運用が最も資産が増加
→Aの運用方法が全ての人にとって正解の運用なのでしょうか？**

※あくまでも過去の価格の変動に基づいたグラフであり、将来の価格上昇を保証するものではありません。



○ A(リターン重視の運用)の運用方法の特徴はどうでしょう？

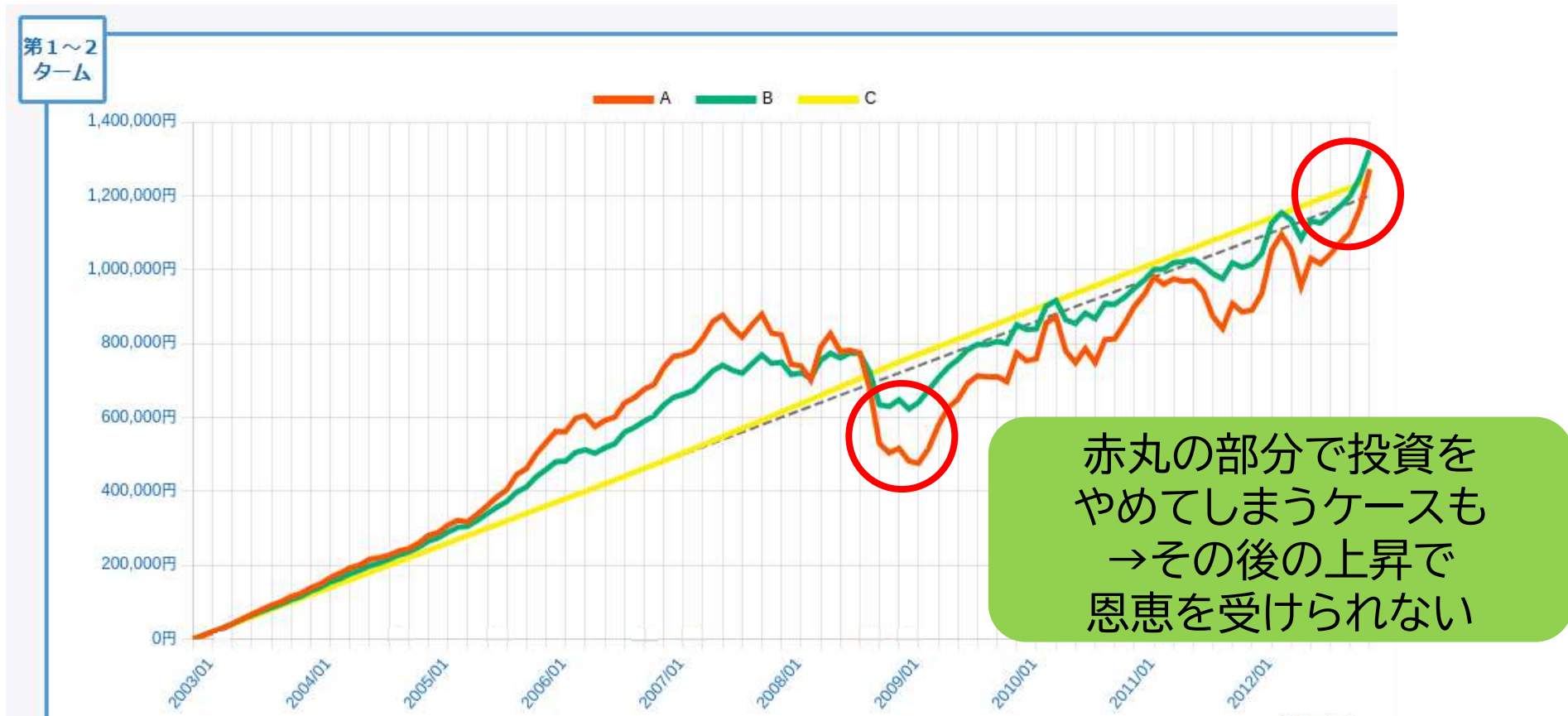
第1～4
ターム

— A — — B — — C —





○ 最初の10年間を抜き出して考えてみましょう。



大きく下落する可能性もあるため、リターン重視の運用を行う場合、リスクを認識し、「長期で運用する」ことが重要

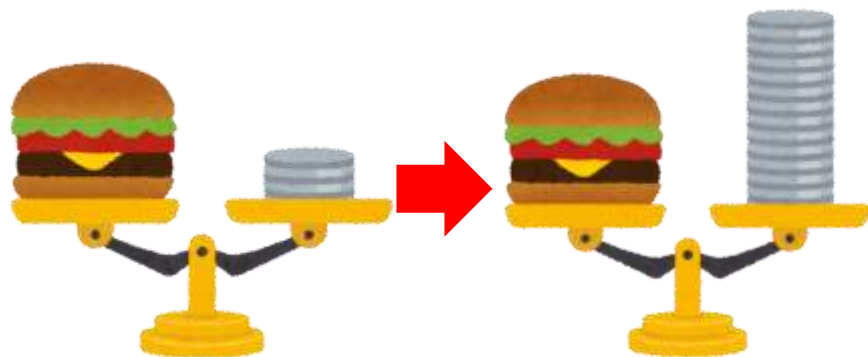
○ C(預貯金のみで運用)の運用方法の特徴はどうでしょう？

第1～4
ターム



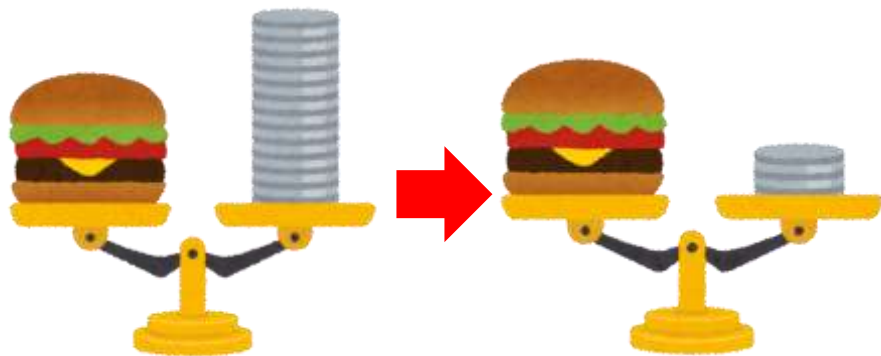
インフレが発生した場合、価値が目減りするリスクがあります

○ インフレ・デフレとはどのようなものなのでしょうか？



インフレーション(インフレ)

物価が継続的に上がり、お金の価値が継続的に下がること。
適度なインフレのもとで、企業の利益や働く人の給料もあわせて上がると、消費や投資が活発になり、社会にお金が循環して景気の回復・成長につながっていくと考えられている。



デフレーション(デフレ)

物価が継続的に下がり、お金の価値が継続的に上がること。
モノの値段が下がることで、企業の利益が減り、働く人の給料も増えない等、景気は停滞していくと考えられている。

○ インフレによる預貯金の目減りリスクに注意しましょう。



現在の
100万円

年1%の
複利で預けると？



20年後
約122万円



現在の値段
100万円

毎年2%ずつ
物価が上昇すると？



20年後の値段
約149万円

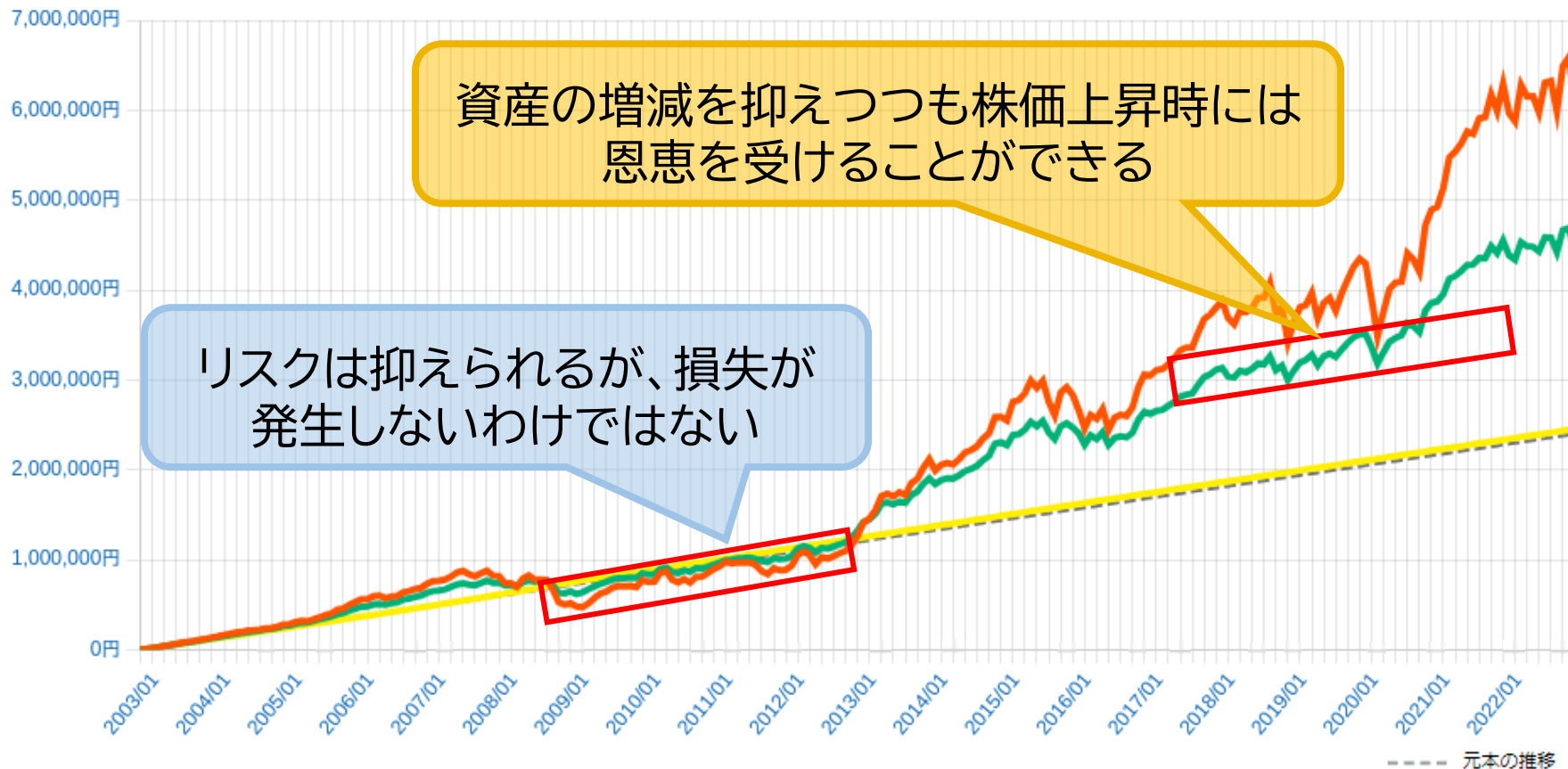
預貯金は、物の値段が上がることで
相対的に価値が減り、損をしてしまうこともあります。



○ B(バランス型の運用)の運用方法の特徴はどうでしょう？

第1～4
ターム

A B C

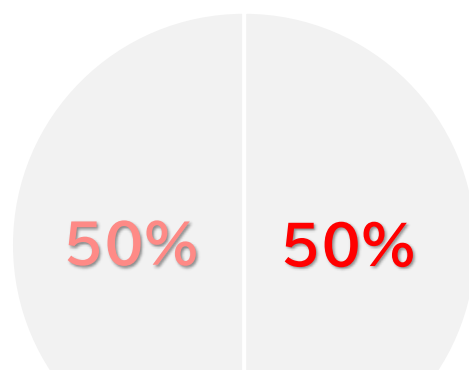


○ A～Cに正解はありませんが、特徴を理解することが重要です。

A. リターン重視の運用

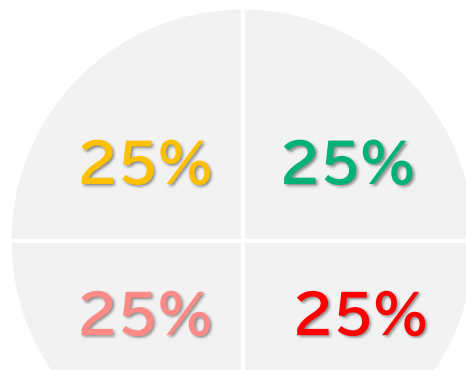
B. バランス型の運用

C. 預貯金のみで運用



国内株式

外国株式

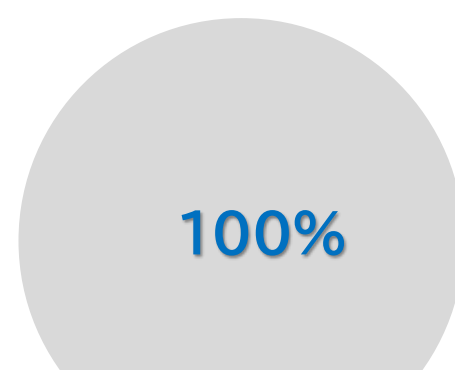


国内債券

国内株式

外国債券

外国株式



預貯金

A～Cそれぞれにメリット・デメリットがあります
⇒自分が**どれだけリスクを許容できるか、どれだけリターンを求めたいか**を考えて資産配分することが重要です。

※今回は2003年からの20年間で説明しましたが、より長い30年、40年等の期間や、他の20年間でも同様のことが言えます。



2 株式投資



- 株式投資を畑に例えて考えてみましょう。
- 畑全てを自分のお金で所有するのは難しいため、株式を発行してお金を集め、所有権を分けるようなイメージです。

畑



畑に野菜が実ったら販売して、利益を得る








Aさん所有	Bさん所有	Cさん所有
	Dさん所有	Eさん所有





お金を出し合って
畑の所有権を
分ける



畑に野菜が実り、
野菜を売ったら
利益が出た

 Aさん所有	Bさん所有 	Cさん所有 
	Dさん所有 	Eさん所有 

野菜を売った利益を
株主に分配
⇒配当金 

収穫した野菜の一部を
株主にプレゼント
⇒株主優待 



畑

不作であり野菜が
取れなかった場合
(業績の悪化)

Aさん所有	Bさん所有	Cさん所有
	Dさん所有	Eさん所有

配当金が減るもしくは
配当金がなくなったり、
株主優待が廃止されたり
することもある

○ 株価を動かす要因には様々なものがあります。



根本的な要因は会社の業績です



○ 金利が株価に与える影響を見ていきましょう。

金利ダウン↓



企業 ⇒ お金が借りやすい
⇒ 費用減、利益増
個人 ⇒ 預金の金利が低い
⇒ 預金から株式へ



株価アップ↑



金利アップ↑



企業 ⇒ お金が借りにくい
⇒ 費用増、利益減
個人 ⇒ 預金の金利が高い
⇒ 株式から預金へ



株価ダウン↓



○ 為替が株価に与える影響を見ていきましょう。

円安(ドル高)



120円

1ドル



100円

円高(ドル安)



80円

チョコレートを米国で1ドルで販売した場合
・100円⇒120円で売れます。

➡ 20円分の利益増
輸出(企業)に有利

チョコレートの原材料カカオ豆を1g当たり1ドルで購入する場合
・100円⇒80円で買えます。

➡ 20円分の費用減
輸入(企業)に有利

○ 景気と株価は密接に関係しています。

好景気

不景気

商品の
売れ行き



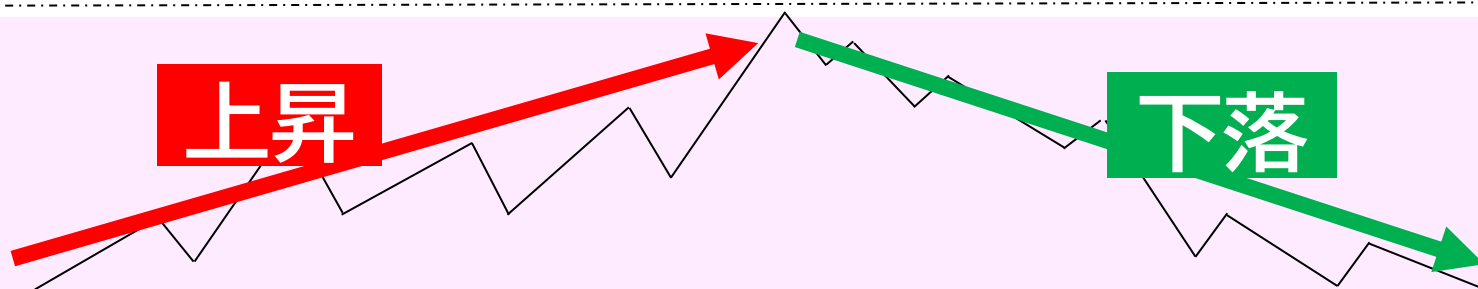
企業業績



株 価

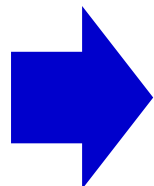
上昇

下落



○ 海外の株価が日本の株価に影響を与えることも多くあります。

例 米国で**株価アップ**



理由は米国の**好景気**

日本の輸出企業

商品の
売れ行き

米国



日本



企業業績UP

株 価

上昇

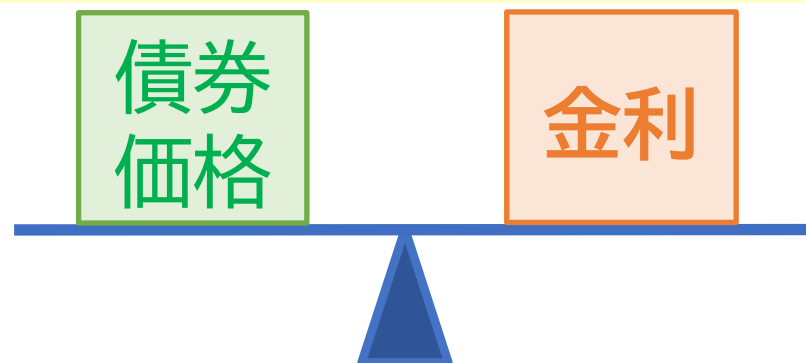


③ 債券投資





○ 金利が変動すると債券の価格も変動します。なぜでしょうか。



多くの債券は発行時の利率で固定されている



市中金利が変動しても、既に発行された債券の利率は変わらない



既に発行された債券の利率は変わらないが、
代わりに価格が変動し、利回りも上下する

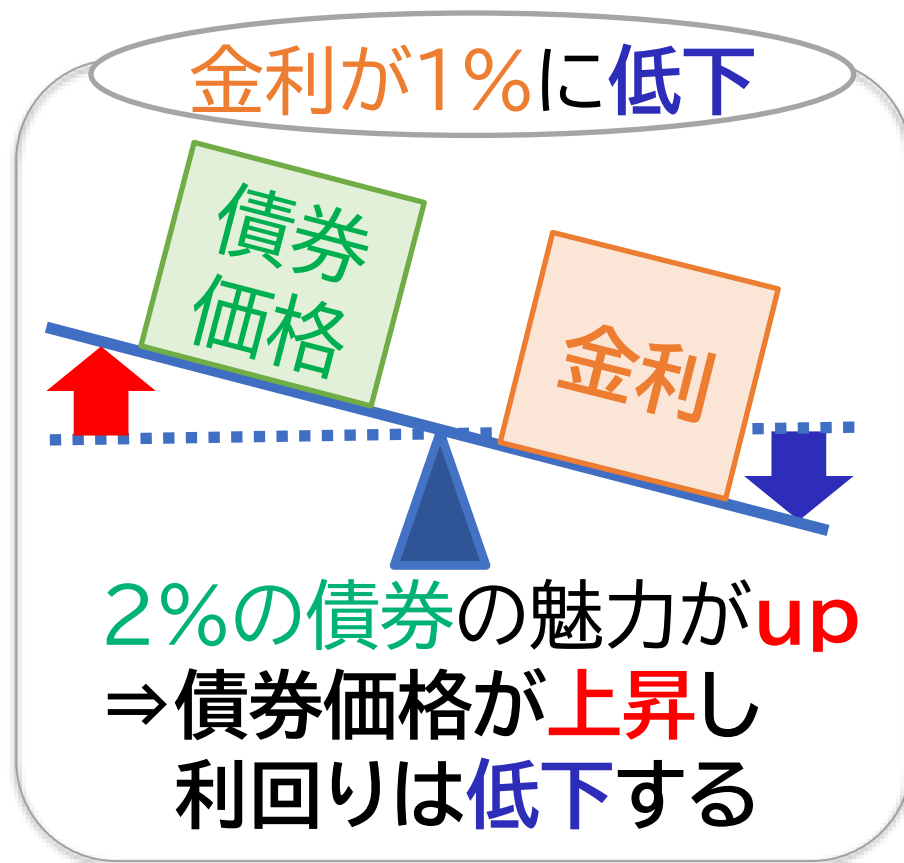
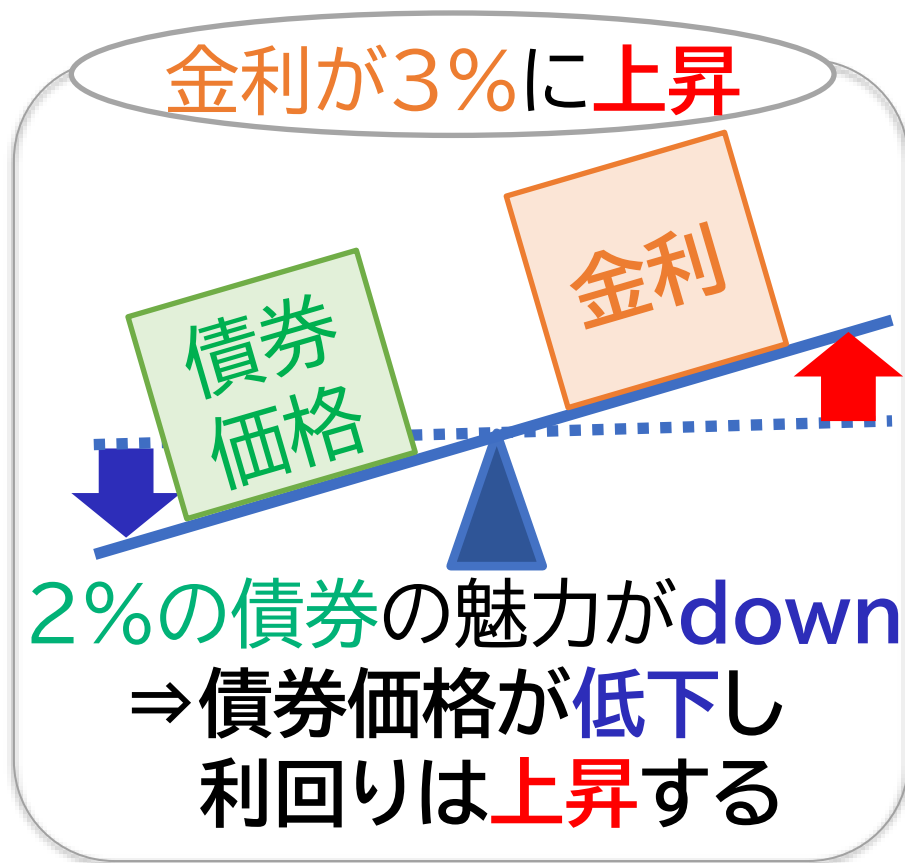
利率… 債券の利子をパーセンテージで表したもの

利回り… 債券の利子だけでなく、購入時と償還・売却時の差額を含めた投資による収益の割合をパーセンテージで表したもの

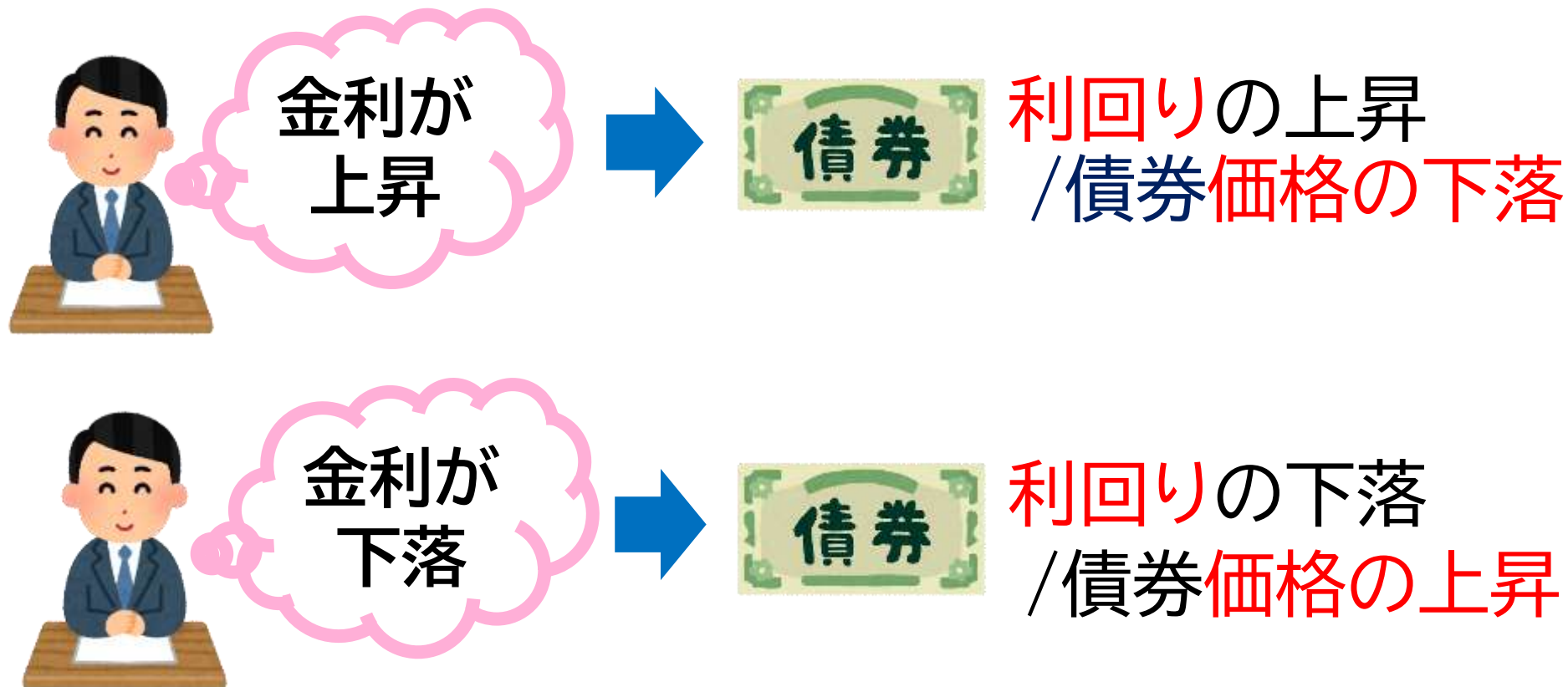


○ 金利と債券価格の具体的な関係を見ていきましょう。

【例】発行時の債券価格が100円、利率が2%の場合



- 新聞やテレビなどの報道で「金利」が上がった、下がったという場合は通常『**利回り**』を指します。



○ 債券には、固定金利のものや変動金利のものがあります。

固定金利

預入や購入時点で表示されている金利が
満期まで変わらない金利

変動金利

世の中の金利の動きに応じて、**定期的に見直される**金利

活用方法

◆ 将来金利が**低下**すると予想される



固定金利

◆ 将来金利が**上昇**すると予想される



変動金利

逆に住宅ローン等のように「お金を借りる」場面では、将来金利が低下しそうであれば変動金利、将来金利が上昇しそうであれば固定金利を活用することが考えられます。



4 投資信託



- 投資信託を選ぶ場合は、投資対象はどの資産か、投資地域はどこかといったところに着目します。

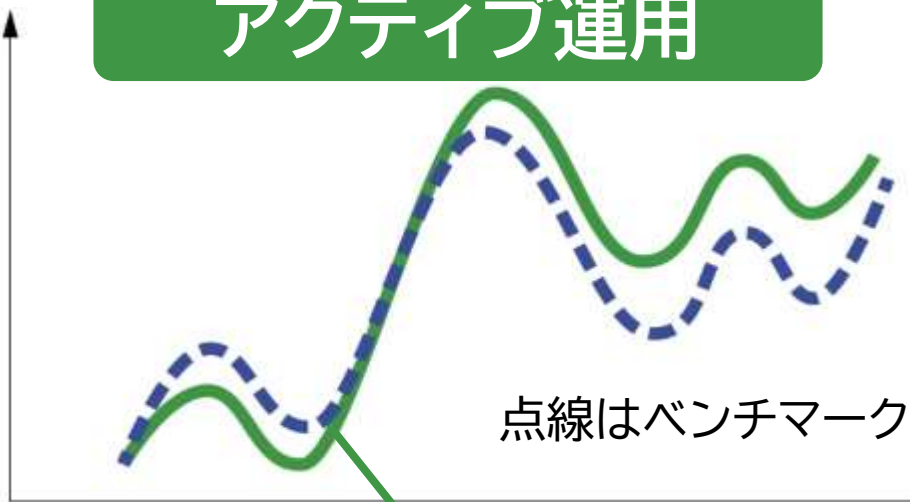
投資対象 ▼	投資地域 ▶	
	国内	海外
債券	国内債券	海外債券
株式	国内株式	海外株式
不動産 REIT	国内REIT	海外REIT
その他(金など)	コモディティ(商品)など	

バランス型

- 投資信託には大きく分けて『アクティブ運用』と『インデックス運用』の2種類があります。
- アクティブ運用は、ベンチマーク※を上回る成果を目指す分、手数料が多くかかる傾向にあります。一方で、インデックス運用は機械的に運用するため、手数料が安い傾向にあります。

アクティブ運用

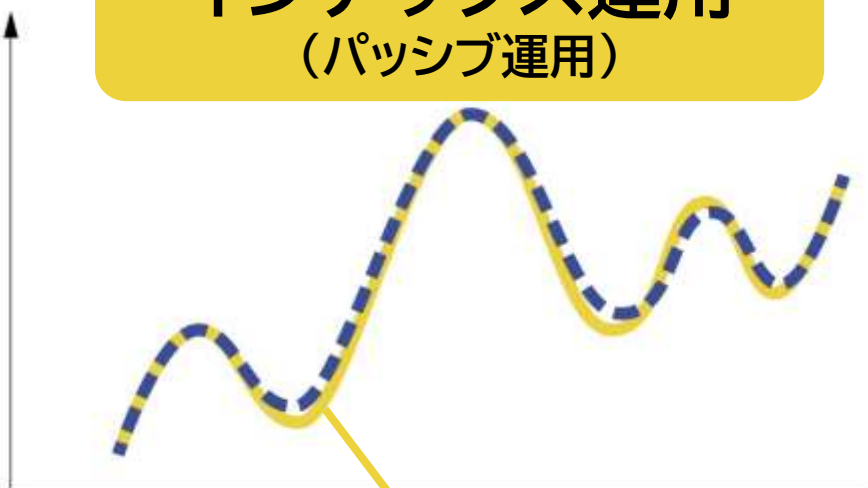
(投信の価格)
基準価額



ベンチマークを上回る成果を目指して積極的に運用

注:ベンチマークを上回る運用成果が出るとは限りません。

インデックス運用 (パッシブ運用)



ベンチマークへの連動を目指す

※ベンチマークとは運用の目安となる
日経平均、TOPIXなどの指標のこと

- 投資信託を購入する前には、重要事項が記載されている『**交付目論見書(投資信託の説明書のようなもの)**』で、どんな商品かを確認しましょう。

どのように
運用？

リスクは？

実績は？

コストは？
※

※ 主なコスト・・・購入時手数料、運用管理費用(信託報酬)
信託財産留保額(解約時の費用)、税金など

投資をする前にはどんな商品であることを必ず確認し、
自分の理解できないものには投資をしないことも大切です。